

目的 薬用菊花中には、フラボノイド色素のアピゲニン及びアカセチン配糖体が含有されている。これらの色素はアルカリ性で橙黄色を呈することが知られている。そこで、これらの配糖体を分離して熱風乾燥及び凍結乾燥処理を行った。この粗フラボノイド配糖体粉末について各種のアルカリ媒染剤を用いて絹に染色し、その染色状態及び各種媒染剤による発色、日光堅牢度、洗濯堅牢度、摩擦堅牢度に関して各々実験を行った。

方法 1. 菊花の乾燥したものを粉末にし、これに蒸留水を加え冷浸出を行う。抽出液に酢酸鉛を加えて沈殿が生じなくなるまでくり返す。次に2% NaOHで2回冷浸し、浸出液を塩酸で酸性にし、生じる沈殿を高速遠心分離機で分離した。これをヘキサソで洗浄したこのものを熱風乾燥又は凍結乾燥してフラボノイド粗配糖体とした。アピゲニン及びアカセチン配糖体は、ペーパークロマトグラフィーによって分離同定した。2. 媒染剤として炭酸ナトリウム、炭酸カリウム等の9種類のアルカリ性塩を使用した。3. 絹布は、温湯で洗浄し、室内自然乾燥したものを染色に用いた。4. 耐光試験、洗濯試験、摩擦試験をそれぞれ行った。測色はSMカラーコンピューターとCIEクロマトシティダイヤグラムを用いて算出した。

結果 配糖体の凍結乾燥粉末はアルカリ性塩に完全に溶解したが、熱風乾燥した配糖体粉末は難溶であった。酢酸ナトリウム、クエン酸三ナトリウム、リン酸二ナトリウム等の媒染剤を用いたものは、洗濯試験、摩擦試験ともに良好な結果を示したが、耐光試験はすべての媒染剤について劣っていた。